

第1回放送の概要（2017年4月22日）

今回から始まったママトークは、神戸ママネットのメンバーとサポーターが集まって、年齢性別に関わらず、日頃世の中に抱いている疑問や不満の数々に、たまにはマニアックな話題まで、メンバーでぶっちゃけトークが出来ればと思っています。本日は5人のメンバーに集まってもらいました。自己紹介をします。

（あきねえ）40代、子どもは中1、小4、1歳。神戸ママネットでは、子育て支援のプログラムで寺小屋クラブやキッズラボの講座を担当。

（じゅんちゃん）40代、子どもは0歳、3歳。婦人神戸で海外の教育事情についてコラムを書いている。本職はメーカーで広報を担当し、来月から職場復帰する。

（あっちゃん）50代、算数教室の指導員を今年で7年目になる。娘2人は成人式を終えた。母親の介護16年目。

（たまちゃん）40代、小学生男子2人（小3、小6）の子育て中。普段は夫の仕事の手伝いを在宅でしている。ママネットメンバーとして、子どものイベントに関わり、運営などの手伝いをしている。

（まきちゃん）本日のファシリテーター。40歳になったところ。子どもは6年生（女）、4年生（男）、1年生（女）。婦人会館ではパソコンの個別レッスンの先生、婦人会館のHPをリニューアルしたワーキングラボのメンバー。

本日のテーマは、「女性が輝く社会とは（1）」です。（1）の意味は、このテーマは1回で完結しないこと、まだまだ女の子だから、お母さんだからこうしなければならないという固定観念が強く残っている中で、女性が働き手として生きていかなければならない現在において、女性が輝くとはどういうことなのかについて、各人の思いをききたい。

（じゅんちゃん）子どもが生まれたが、いつも自分がやりたいことは絶対やりたいと思っている。世の中の女性は子どもが生まれても出来るだけ自分のやりたいことをやり、それが生産性を上げて収入に結び付き、自分の楽しみを追求出来ている人が沢山いる社会が、輝いている社会と思う。

（まきちゃん）独身時代は自分のやりたいように出来るので、時間も自由に使えるが、子どもが生まれると一気に変わる。

（じゅんちゃん）自分の時間の使い方を凄く考える。出来るだけ家事は効率的に行い、自分の時間を生み出すかを考えるスケジュールリングが肝になる。子どもが生まれてから、自分の為に投資できる時間をいかにつくるかが上手になった。色んな事を同時並行して対処出来る自分になっていると思う。

（まきちゃん）自分で時間を作る働きかけを自分からしないと、いつの間にか時間が過ぎてしまったということになる。

（あきねえ）子育て支援で色々なお母さん、色々な年代の女性を見てきて思うことは、働いて収入を得る仕事は勿論、ボランティア、地域活動もそうだが取りあえず社会と接点を持つこと、そして人の役に立つことをしながら、自分らしく生活出来ることが基本にあって、その上で女性が直面する、結婚、出産、育児、介護などの課題を、その都度サポートする体制や仕組みのある社会が出来ていると、サポートがあることで輝き続けられる。我々はロスジェネ（Lost Generation）世代、バブルがはじけた世代、ベビーブームで就職氷河期、美味しいことがない世代であった。小中時代は女性が輝く花の女子大生と言われたが、自分が女子大生になるとコギャルなど高校生が注目され、自分達は時代と逆行してきたと思う。社会人になるとバブルがはじけ、バリキャリ（バリバリキャリアウーマン）という言葉があったが、それより寿退社を勧められる風潮があった。結婚した時、寿退社を何故しないのかと言われた。仕事が楽しい時期であったので共働きでやってきたが、実際に主婦になると泥臭かった。子育て支援と言っても粗末に扱われ（10年前）、児童館に行っても電気を消された中で遊び、おもちゃが壊れたままであった。主婦は何をしているのかと思っていたが、10年経った今地域で活動していたり、子育て広場ではおばちゃん達が見守ってくれていることから、凄く大事なことをしていることに気付いた。今主婦でも自分は頑張れるかなと思ってやってきたら、今は女性も働こうということに変わってきたので、すべてにおいて理想に対しずれが生じ、いつも悩んでいる世代と思っている。

(まきちゃん) 各人の思いを聞きたいと思います。

(たまちゃん) 女性が輝くといっても個人それぞれの価値観が違う。一つのものを目指すのは不可能と思う。女性は学生時代、就職、働くが一人好き放題をし、結婚し子どもが生まれ、仕事を辞めることで収入がなくなる。子どもと向きあう時間が生まれるが、子どもが育ち一人ぼっちになる。ステージステージで考え方、価値観がどんどん変わっていく。その中でどのように輝いていくのか。あぎねえの話の中にヒントがあったが、常に社会との繋がりを持ち続けていくこと、女性が自立するという一人でしっかり立っているのではなく、社会、家族など廻りから支えられながら、自分が生きている今の時代をしっかり立っていることと思う。

(まきちゃん) 子育てだけでも一人では絶対無理で、それを感じるから余計に最初はストイックに自分だけで子育てと思っていたが、無理ということがわかった。ストイックにやってしまうと偏った考え方の子どもになってしまう気がする。そうではなく、子どもを色んなところに連れ出し、色んな大人と関わってもらうことで深みのある子どもに育つと感じた。繋がりはずっと持っておく必要があると感じた。

(たまちゃん) 子育てしながら自分も育っていく。

(まきちゃん) 一緒に影響を与えあう。

(たまちゃん) そうすると価値観を共有できる。

(まきちゃん) 子どもと一緒に価値観を共有出来るのはすごい満足感がある。

(たまちゃん) 小3、小6の息子がいるが、自分の思いが伝わっていると思う。食卓でも会話がなくなるとはなく、母親の考え方を話すと、子どもなりに考え方を返してくれる。母親の事をわかってきているという思いがある。

(まきちゃん) 小3、小6になると十分それぞれの考え方をもち、子どもという感じではなく、応えてくれる。3年生の時点で母親と対等で思いをやりとり出来る子どもばかりに育ってない気がする。たまちゃんが、これまで子どもとどう関わりをしてきたか、何を大事に子育てしてきたかが大きいと思う。

(あっちゃん) ステージで違うことは自分も同じで、結婚は早くなかったが10年は子育てに集中した。そういう時代であった。下の子が小学校に上がる手前で社会に接点を持ちたいと思っていたが、入学式の1週間前に母親が脳梗塞で倒れ、介護と何も出来ない父親の世話に没頭したのが次の10年。その間子どもは寂しかったようで、子どもとお婆ちゃんのどちらが大事と言われた。子育てを一生懸命やっただけで、介護、子育て、家事で精いっぱいであった。子どもが大きくなり何かやりたいという気持ちを持ち始めたのがそれからの10年であった。7年前、子どもが通っていた算数教室の先生を見て、孫のように子どもをかわいがっていたお婆ちゃんのようになれたらと思った。その後少しずつ外に出られるようになった。今の算数教室の指導員になれた第一歩であった。OLの頃はバブルの時代であった。

(まきちゃん) あっちゃんは介護で時間を取られざるを得ない状況で、育児をどっぴりやり、そこにパワーを注ぎやってきた。自分も同じで、その間は自分のやりたいことは覚悟して二の次にしてきた。じゅんちゃんの場合は、そこは保育園の先生に頼らせてもらい、自分のやりたいことを実現してきた。

(じゅんちゃん) 今そうしているのは、育休の時に1年半休みママネットにコンタクトした時、社会から取り残された不安感が大きかった。20年間仕事を頑張ってきたので、急に子どもと二人の生活に変わった時の不安感がある。二人目の子どもが出来た時、再び1年半休むことが考えられず、3歳の子どもも色んな人に助けられながら子育てしたらよいという考えに共感し、色んな人とのコミュニケーションの中で子どもも成長することに実感がある。ママの魂をいかに子どもに授けられるか、10年間子どもと向き合う親子関係はどうなのかについて今日凄く衝撃を受けた。頼れるところは保育園にお任せと思っていたが、家族との絆を考えるとどうしたものかという葛藤が生まれている。

(まきちゃん) 1歩先に育児を経験している人とこのように話をすることで、自分の選択が間違っていないか、やっていることが実現に向かっているのか、振り返るきっかけになっている。今日は課題が出たところなので次回以降続けていきたい。